

Emergency



Watch

No.58 Oct. 2015



神戸こども初期急病センター

2015年9月受診者数：2824人

【訴え】

1. 発熱 : 1634人 (1109人)
2. 咳嗽 : 1397人 (356人)
3. 鼻汁 : 867人 (23人)
4. 呼吸困難 : 530人 (452人)
5. 嘔吐 : 365人 (136人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 725人
2. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 401人
3. 感染性胃腸炎 : 188人
4. 気管支炎 : 93人
5. 手足口病 : 92人

10月に入りいよいよ秋も本番になってきました。海の幸、山の幸がおいしくなり、紅葉やススキが目美しい季節になりました。日中もぐっと涼しくなり、スポーツや行楽には最適の季節ですね。皆様はいかがお過ごしでしょうか？

9月の神戸こども初期急病センターへ受診者数は2824人でした。受診理由としては発熱が最も多く725人でした。また気管支喘息、喘息性気管支炎での受診者数が401人と先月に比べて倍以上に増加しています。この時期は季節の変わり目で朝夕の寒暖の差が大きく、喘息の発作を起こしやすくなっていますので特に注意が必要です。またこれから冬にかけてインフルエンザや胃腸カゼなどが流行してきます。引き続きうがい、手洗いの励行をお願いします。

さて今回の話題は「インフルエンザ」を取り上げたいと思います。インフルエンザはインフルエンザウイルスを病原とする急性の呼吸器感染症です。インフルエンザの流行は歴史的にも古くから記載があり、16世紀のイタリアの占星術師たちが周期的に流行するこの病気を星の運行や寒気の影響によるものと考え、「影響」を表すラテン語「influentiacoele」にちなんで「influenza」と呼んだことがインフルエンザの語源であるといわれています。流行が科学的に証明されているのは1900年頃からで、毎年の流行に加えて「スペインかぜ」、「アジアかぜ」、「香港かぜ」、「ソ連かぜ」と呼ばれる4回の世界的な大流行があり、また最近では2009年の「インフルエンザA (H1N1)」の大流行が記憶に新しいと思います。

インフルエンザは例年11月の下旬から12月上旬頃に流行が始まり、翌年の1月～3月にかけて流行のピークを迎えます。症状としては普通の風邪と同じような発熱、鼻水、咳、のどの痛みといった症状に加え、頭痛、関節痛、筋肉痛といった全身の症状が見られます。小児では急性脳症や肺炎を合併して重症化することがあるため注意が必要です。

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に出る小さな水滴(飛沫)による飛沫感染です。マスクなどで飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は減少します。流水やせっけんによる手洗いや、アルコールによる消毒も感染予防に効果があります。流行前のインフルエンザワクチンの接種も有効です。インフルエンザワクチンは、接種すれば「インフルエンザに絶対にかからない」というものではありませんが、ある程度の発病を阻止する効果があり、またたとえかかっても重症化を防ぐ効果があります。ワクチン接種は生後6か月から12歳までは2回、13歳以上は1回の接種が推奨されています。でワクチンの効果が表れるまでには2週間程度かかりますので流行が始まる前に早目にかかりつけの小児科でご相談ください。

